

第2回青森県行財政改革推進本部（R5.8.2） 本部長指示事項

＜本部長指示事項＞（発言要旨）

- ・知事は県民から選ばれてこの場にいる唯一の立場。SNS等を通じて、毎日のように県庁に対する意見をいただいている。
- ・具体的には、県民局、病院など窓口での対応についての要望や苦情である。
- ・一方で行財政改革大綱や基本計画などは美しい姿であるが、現実とのギャップがある。
- ・このギャップは内部統制の話でもあり、同時にその組織をどう運営していくのかとイコールであり、そのギャップを埋めることが大事。
- ・当選してすぐ「県庁大改革」と言ったときは大きな反響があり、県民の期待感を感じている。
- ・組織を変える時に、窓口業務など最前線に立つ職員たちのマインドセット、組織としてどうガバナンスを作っていくかが大事。

以上を踏まえ、以下8点を指示する。

- 1 県庁組織のあるべき姿をゼロベースで検討すること。
- 2 検討にあたっては、若手職員からの意見を含め、その手法も考えて、全庁的な議論を行うこと。
- 3 上から上からではなく、職員一人ひとりが働きがいを感じ、今まで以上に活躍できる環境づくりに取り組むこと。
- 4 県庁が率先してDXを推進し、市町村や事業者等の取組を力強くけん引する体制を整えること。
- 5 県民経済に貢献できる安定的かつ健全な財政運営に向け、税財源の涵養と確保に努めること。【新しいアイデアが必要】
- 6 施策の立案にあたっては、今まで職員の知見やコンサルなどの力を借りるなどがあつたと思うが、県民との対話を重視し、県民の声が県政に反映されるような仕組みを仕掛けていくこと。
- 7 公共施設等の適切な管理等を市町村と連携して、時代に即した整備・機能確保を図ること。
- 8 県庁の目標を定めたい。「より信頼される県庁」という個人としての目標は言ってきたが、県庁全体の目標をみんなで検討し、みんなで共有できる形を作り、県民に示していきたい。

以上、職員みんなが県民の皆様の暮らしが良くなったと実感できるよう、県民目線で取り組んでいただくよう指示する。